

夫婦のための「ワークライフバランス」セミナー

開催しました！



共働きの夫婦にとって、仕事と生活を両立するためには互いの協力が不可欠です。そこで当法人は2月17日(土)、夫婦のための「ワークライフバランス」をテーマにしたセミナーをホテルグランドパレス(東京都・九段下)で開催。講演とパネルディスカッションを通じて、「夫婦の働き方」や「家事・育児の問題」など、働く夫婦の悩みについて解決策を紹介しました。

基調講演

ワークライフバランスを実現するためには、“タイムマネジメント”の徹底が不可欠！

人材確保などの観点から女性活躍を推進する企業が増えている中、最も重要視されているのがワークライフバランス。働き方に関する著書を多数手がけている佐々木常夫氏は、「ワークライフバランスとは、個人も組織もともに成長できる経営戦略のこと」であると指摘します。

「家族との時間やプライベートの時間を確保するために残業をなくすことは大切ですが、同時に一定以上の成果を残さなければ会社は存続できません。そこで必要になるのが、タイムマネジメントの徹底です」

佐々木氏は、タイムマネジメントで重要なことのひとつとして、すぐに動き出さず“最も大事なことが何かをつかむこと”を挙げます。

「まずは計画を立て、雑用はサッと終わらせて、肝心要の仕事にしっかり時間を割く。こうした戦略的な働き方は残業時間の削減、ひいては家族と過ごす貴重な時間の確保につながっていきます」

さらに、長時間労働が常態化して

講師
佐々木常夫氏



東レ(株)取締役、(株)東レ経営研究所社長を経て、現在は(株)佐々木常夫マネージメント・リサーチ代表取締役。『働く君に贈る25の言葉』などベストセラー多数。

しまっているような状況でも、率先してワークライフバランスを実行すべきだと強調します。

「働き方＝生き方です。幸せになるために『自分はこう働く(生きていく)』という意志を、周りに積極的に伝えて貫く決意を持ってください。家族の生活と絆を守り抜くこと、つまり“家族の成功”は仕事の成功の上にあり、同時に夫婦円満であってこそ仕事は上手くいくのです」

まとめ

- ワークライフバランスとは、個人も組織もともに成長できる経営戦略
- 仕事と生活の両立には、タイムマネジメントが不可欠
- 幸せになるために、自分の働き方を決めて貫く



夫婦と一緒に参加される方が多く、ワークライフバランスを実現するための仕事術について聞き入っていました。

パネルディスカッション

自分にとっての“幸せ”とは？
今こそ、女性と男性の働き方を見直すチャンス

矢島 子育てと仕事を両立する“働く女性”の代表として、岩田さんはどのように仕事に臨んでいますか？

岩田 以前は人のペースに合わせて受け身で仕事をするが多かったのですが、子どもができてからは家庭を優先して早く帰るために、意識的に時間を区切り、自分の意志を積極的に伝えるようになりました。ただ、社会が女性活躍を推進する一方で、現場ではまだ浸透していないとギャップを感じることもあります。

田中 子育て世代がフルタイムで共働きするうえでの課題は、これまでにない新しい問題なので、ズレを感じるのは当然ともいえます。そこで考えなければならないのが、“女性の活躍”とはなんなのかということ。いい会社に入り、長時間労働も辞さない“昔の働く男性像”を当てはめるのではなく、「自分にとって何が幸



モデレーター
矢島洋子氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 主席研究員、女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室室長。中央大学大学院戦略経営研究科客員教授なども兼務。

パネリスト
田中俊之氏



大正大学心理社会学部准教授。「男性学」を主な研究分野とし、『男が働かない、いいじゃないか!』など著書多数。

パネリスト
岩田優子氏



分析装置の開発・製造を行う(株)リガクに勤務。産休・育児から復帰し、フルタイム勤務で1歳の子どもの育児にも奮闘中。

福か」を考えなければ、ただ時代の潮流に振り回されて終わってしまいかねません。

矢島 実際、管理職の中には、時短勤務などで残業をしない従業員に「どう仕事を与えて評価したらいいかわからない」という人も多いですね。佐々木 私は「制度より風土、風土より上司」と思っています。いくらいい制度をつくっても、取得しづらい風土があっては意味がない。そして、積極的に制度を推進してくれる上司がいれば、自然と制度をとりやすい風土が生まれていきます。

岩田 そうした会社の課題は、家庭や子育てでさまざまな経験をしながら働く女性だからこそ気付けるものでもありますよね。

田中 会社だけが社会だと思っている“企業社会人”の多くは、家族や生活を犠牲にして組織にコミットしている人のほうが優秀だと考えがちです。そういった面では、女性だけでなく、男性の働き方も変わっていかねければなりません。

佐々木 世の男性の多くは、家族と過ごす、子どもの成長を感じる、そう

した面白さや喜びを知りません。体験すれば、いかに育児が自分の人生や価値観に大きな影響をもたらすかわかるはず。1週間でもいい、ぜひ男性も育児をとってみてください。

田中 すぐに夫の意識を変えることは難しいと思うので、まずは強制的に家事の役割を決めてあげるのも手ですね(笑)。子どもと妻がいる家庭でどう生きていくか、自分事として捉えるきっかけにもなるでしょう。

矢島 夫婦共働きのロールモデルは、これから新しくつくっていくもの。働き方を見直すことで、夫婦の幸せについても見えてきそうですね。



セミナーの最後には参加者からの質問も受け、パネリストからのアドバイスも。

参加者 VOICE

育休中で社会との距離感に不安を感じていましたが、今後の働き方について見直すいい機会になりました。家族のあり方や育児についての方針も一緒に考えていきたいと思います(26歳/女性)

「自分が幸せになるために働く」という言葉が心に刺さった。今の会社に勤めて3年ほど、最近では心が疲れて仕事量を減らしていたが、今後の生き方について真剣に考えるきっかけになった(43歳/女性)

講師、パネリストのタイムマネジメントや仕事に対する考え方が新鮮でした。また、男性の育児のメリットも興味深く、自分の家庭への関わり方について、妻と一緒に話し合いたいと思います(31歳/男性)